取付・配管・配線時

1. 取付

⚠ 注意

■①取扱説明書は、よく読んで内容をご理解の上製品を取付けてください。
②電磁弁搭載形の場合、取付時コイル部に外力を加えないでください。
③取付後、配管漏れ、電線接続の有無を確認して正しい取付けがなされているかご確認ください。

2. 配管

⚠ 注意

■配管時の締付トルクは下表を参照してください。

配管の呼び径	配管締付トルクの推奨値（Nm）
Rc1/8	7～ 9
Rc3/8	22～24
Rc1/2	28～30
Rc3/4	31～33
Rc1	36～38
Rc1 1/4	40～42
Rc1 1/2	48～50
Rc2	54～56

■電磁弁部を利用して配管しないでください。破損する恐れがあります。（NP・NVPのみ）

■配管のねじの長さは、有効ねじ長さを守ってください。また、ねじ部先端より半ピッチ程度は面取り仕上げしてください。

■配管の前に0.3MPaのエアでフラッシングを行ない、ゴミ・金属粉・錆・シールテープなどの異物を除去してください。

■配管時に使用するシール剤（シールテープ、ゼリー状シール剤）を過度に使用しますと、製品内部に入り込み、作動不良の原因となります。

■シール剤を配管材などに塗布・巻く場合は、管端からねじ部を1.5～2山残して塗布・巻いてください。

■流体中のゴミ、異物は製品の正常な機能を妨げます。5μm以下のフィルタを設置してください。

■製品に配管を接続する場合、供給ポートなどを間違えないようにしてください。

■保守・補修作業を容易にするためにバイパス回路を設置するとともに、ユニオンを使用して配管してください。

■タンク内の流体を制御する場合は、タンクの底から少し上に配管してください。

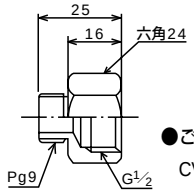
■操作用電磁弁にマニホールドを採用する場合、他の排気圧の回り込みの影響による誤作動を防止する為に、「排気誤作動防止弁」内蔵の電磁弁を使用してください。（NAPのみ）

3. 配線（NP・NVPの場合）

⚠ 注意

■DIN端子箱・T形端子箱の接続方法は技術資料（1151～1152ページ）を参照してください。

■DIN端子箱の外部導線引込口のネジサイズをPg9からG1/2へ変更する場合は下図のようなコネクタを別売で対応しております。



●ご注文形番：
CVS2-CONNECTOR-F4-202936

■コイルの向きは180°変更できます。
電気結線方向を逆にしたい場合はコイルのみ回転させてください。パイロット電磁弁のボディを動かすとバルブが作動しません。

■許容電圧範囲でご使用ください。許容電圧範囲外でのご使用は作動不良やコイル損傷の原因となります。

■電気設備の保全のために、制御回路側にはヒューズなどの遮断器をご使用ください。

■電気回路系がソレノイドのサージを嫌う場合は、サージキラー付（オプション）をご使用いただくか、サージアブソーバなどをソレノイドに並列に入れてください。

■配線用電線は、目安として公称断面積0.5mm2以上をご使用ください。また、リード線には無理な力が加わらないようにしてください。

■接点チャタリングの発生しないスイッチング回路の採用は、電磁弁・電動弁の寿命をより長くします。